

# 農業

AGRICULTURE



## だれもが口にするものだから 安全で安心な美味しいものを

農業は町の基幹産業のひとつとして重要な役割を担っています。球磨川流域をはじめ、主要な河川沿いに広がる水田地帯と、その周辺の畑地帯からなる中山間部に分けられ、それぞれの特性を活かした農業が営まれています。社会状況の変化や消費者ニーズに対応した効率的かつ安定的な経営の確立を図るため、農家の方や関係機関との連携を密にし、農業の振興を行っています。





### 大豆

町内の大豆生産農家は約150軒。品種は「ふくゆたか」で豆腐や豆乳作りに適したるねえ。刈り取りは毎年11月10日頃。水分がよう抜けてから葉がきれいに落ちたら収穫たい。

### スナップエンドウ

正式な品種名は「ニムラのサラダスナップ」。11月末から5月末までの長期収穫になるけん、水や肥料の管理に気を遣うね。くせがなくて食べやすくて消費者ニーズが高い作物たい。野菜嫌いの子どもたちも喜んで食べるもんね。



### 茎ブロッコリー

2001年頃から栽培をはじめた「茎ブロッコリー」。農薬を使わず自然に優しいムクダイ農法で作っています。9月中旬に種蒔きして、10月中旬に定植。早いものは12月頃には出荷。この長〜か茎が特徴でね、甘みがあっておいしいよ。



平成19年からつくりはじめて今年で3年目です。「新ごぼう」は普通のごぼうと違って色白でずんぐりと短くて食感が柔らかいのが特徴です。味噌汁、きんぴら、サラダ何でも美味しいですよ！

### 新ごぼう



### 米

指定された肥料や農薬を基準にあわせた量や回数だけ使う減肥・減農薬栽培の「ヒノヒカリ」。町の稲作部会と行政がいっしょに作る特別栽培米で、米問屋も欲しがらるあさぎりのブランド米！普通の米とは違うけんね〜

### あさぎりブランド農産物

農林水産省が定める「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に基づき、化学肥料、農薬の使用量・回数が熊本県慣行レベルの2分の1以下で栽培された農産物で、あさぎり町が認証したものを『あさぎりブランド農産物』といいます。各生産部会で取り組んでおり、「安全・安心」な作物を消費者の皆さまに届けたいという意識が、生産者に根付いています。



# 畜産業

STOCKBREEDING



## 畜種に応じた支援体制で 活力ある畜産経営を

農業分野の中でも畜産は、町の基幹産業のひとつとして重要な役割を担っています。畜種も乳牛、繁殖牛、肥育牛、養豚、養鶏と多種多様で、それぞれ畜種の特性を活かした畜産経営が営まれています。

社会状況の変化や消費者ニーズに対応した「安全・安心」な農畜産物の生産で安定的な経営の確立を図るため、畜種に応じた支援体制で畜産振興に努めています。



### 【肥育牛】

熊本のブランド牛、くまもと黒毛和牛「和玉」として、本町からも最高品質の肥育牛が出荷されています。「食の安全・安心」が求められる中、消費者ニーズにあった牛肉を生産しています。



### 【乳牛】

ホルスタインの改良育成技術を競う、乳牛共進会に最高品質の乳牛が出品されています。平成21年に開催された九州連合ホルスタイン共進会第3部で、あさぎり町の乳牛が見事名誉賞を受賞しました。

# 林業

FORESTRY



## 山の恵みから生まれる 新たな可能性

国から都道府県へ配分する交付金により新規事業の実施を支援し、継続的な雇用創出を図ることを目的とする「ふるさと雇用再生特別基金事業」。本町でも「あさぎり山の幸興社」を立ち上げ、新たな山の幸開発事業に取り組んでいます。事業の主体となるのは椎茸栽培をはじめ、榎の苗木育成、山菜の栽培など。豊かなあさぎり町の山の幸を有効活用し、独自の商品開発や販売事業を展開しながら雇用の安定化に繋げることを目指しています。

## さまざまな機能をもつ森を 活かしながら育成する

あさぎり町の森林面積は10,566haで、町の総面積の66%を占めており、林業活動を支える林道の総延長は118.9km、44路線に及びます。このように、本町の多くを森林が占め、林業は農業とともに町の基幹産業のひとつとして位置づけられています。しかし、林業従事者の高齢化や担い手の減少、木材価格の長期にわたる低迷などの要因が重なり林業活動は停滞傾向にあり、林業の活性化は、大きな課題となっています。

森林は、地球温暖化防止、山地災害の防止、水源のかん養、景観保全など経済性だけでは図ることができない重要な公益性を備えています。森林の豊かな恵みを次の世代に引き継ぐため、適正な森林の整備と保全に努めるとともに、これを支える林業の健全な発展に取り組んでいます。

